

や ま う ば き ん と き え
山姥金時の絵

●所在地／稲荷本村 伊豫稲荷神社

●所有者／伊豫稲荷神社

この絵画は、縦 153.5cm、横 59.5cmの紙本着色であり、大額に表装されている。^{あしがらやま}足柄山に住む山姥とその乳にすぎる金時（金太郎）が描かれ、腹巻の赤色が鮮やかである。^{まさかり}かたわらには鉞があり、母子信仰にもとづく愛情や出世、健康を意味した図柄となっている。



^{がんく}岸駒の作と伝えられている。岸駒は、^{ほうれき}宝暦 6 年（1756）^{かがのくに}加賀国（石川県）金沢に生まれ、^{かのう}狩野派、^{ちんなんびん}沈南蘋や丸山派などを学び、岸派の画風を築いた江戸中・後期の画家で、^{てんぼう}天保 9 年（1839）に没した。

明治 16 年（1883）に^{なだまち}灘町・^{ひらおかかぞう}平岡嘉蔵他 6 名が当神社に奉納したものである。